

ぽれぽれ 通信

自衛官を守るのは
我々の仕事だ！

7・8月号
vol.53

見えざる敵との 未経験の戦い

現代の大半の日本人にとって初めての経験となった感染



自衛隊、新型コロナに 斯く戦えり！

症によるパンデミック（世界的流行）。日本全土や世界中で新型コロナウイルスが蔓延する前に、日本では、横浜港に寄港したクルーズ船「ダ

イヤモンド・プリンセス号」において既に新型コロナウイルスとの戦いが始まっていた。ただ、それは、当時の日本国民にとって、テレビの中だけの世界、或いは対岸の火事にしか見えていなかったのかもしれない。なぜならば、船の中で抑え込みが行われており、街中に新型コロナウイルスが流出してはいなかったからだ。

しかし、日本国民の中でも、その船に乗り込み新型コロナウイルスと戦わなければならぬ人たちがいた。それが厚生労働省や防衛省・自衛隊の人間たちだ。本誌では、山本が防衛副大臣を務めていることから防衛省・自衛隊の活動を中心に記すことにする。自衛隊は、従来から感染

症対策での災害派遣要請を受け、何度となく現場に出動し、オペレーションを完遂してきた実績がある。だが、それらは家畜などの動物から動物への感染症対策であり、今回の新型コロナウイルスのように人から人へ移る感染症への対応は、自衛隊創隊以来、初めてのことであった。従って、自衛隊にとってウイルスという見えない敵との未経験の戦いとなった。

未経験の戦いと言っても防衛省の決断は早かった。大抵の災害派遣の場合は、当該地域の知事から派遣要請があり、それを受けて部隊を派遣するが、今回は、要請を待たずして、防衛省の自らの判断において派遣をした。いわゆる自主派遣であった。当時、

マスコミから防衛省幹部に「知事からの要請も無いのに、なぜ派遣しているのですか？どうしてですか？根拠はなんですか？」との問いもあったが、もちろん、防衛省の独自の判断で何の根拠もなく派遣できるわけではない。災害派遣は、①公共性（公共の秩序を維持するため、人命または財産を社会的に保護しなければならぬ）②緊急性（差し迫った必要性があること）③非代替性（自衛隊の部隊が派遣される以外に他の適切な手段がないこと）の3つの要件を総合的に勘案して判断されるものであるが、特に緊急を要し、要請を待ついとまがない場合には自主派遣も可能となっている。今回のクルーズ船「ダイヤモンド」の案件は、まさにこれらの要件に合致していると、いち早く判断し部隊を派遣したのである。

自衛官を守るの は我々の仕事だ

クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」での防衛省・自衛隊の活動、いや活躍と言っても過言ではない今回のオペレーションに関しては、様々なテレビや新聞、雑誌などで取り上げられたので、本誌では割愛するが、一言で表せば、あの密閉された船舶の中で「自衛隊側に誰一人感染者を出さずに任務を完遂した」と言うことである。

もちろん、未経験の戦いであり、人から人へと移る感染症への対策であり現場にいる隊

員たちが、緊張感をもってオペレーションに従事していたことは事実である。一方で、部隊を送り出した側の本省の隊員・職員たちも気が気ではなかった。部隊を派遣してからは、毎日のように幹部への説



▲船内で荷物の搬送をする隊員

明が行われ、現状報告と今後の展開について協議をしていた。船内での感染者の数も日々刻々と増えていき、ついには厚生労働省から派遣されていた職員にも感染者が出るに至った。

省内でも派遣している部隊の隊員の身を案じる声も出始めたが、説明の際、事務方が、その安全性を説明する際に「厚労省の安全基準に従って対策を取っており……」、「厚労省の基準で言えば……」と云うので、しびれを切らした山本が口火を切った。「それではダメじゃないですか？その基準を示している肝心の厚労省の職員に感染者が出ているのであるから、我々は、我々の基準でやるべきだ。隊

員は厚労省の職員ではない。自衛隊の職員であり、防衛省が派遣をしているのだから防衛省・自衛隊のルール（安全基準）を設けてやるべきです。自衛官を守るのは我々（幹部）の仕事ですよ」と。

河野防衛大臣も全く同じ気持ちを抱いていたのである。う、山本の発言を聞いて直ぐに大臣から「厚労省よりも一段安全基準を高め、自衛隊独自のルールを定めて任に当たるように」との指示がなされた。もちろん、安全基準を高めただけで感染者を出さずに済んだ訳でもない。防疫方法を修得し、その手順一つ一つを現場でしっかりと守り、実践した隊員一人一人の練度の高さと心掛けの成果である。国民や外国人を守りに

行った自衛官なのだから、先ずは自らを守らなければ、誰も守ることなど出来ない。そして、この結果、諸外国からも自衛隊のノウハウに関しても大いに関心が寄せられた。防衛省として、世界の平和に貢献出来るのであれば、との思いから東京の大使館に駐在している武官を中心に友好国をはじめ、関心を抱いている諸外国の軍に今回のノウハウについては惜しみなく情報を提供した。

標語ではない本当に 24時間365日の任務

防衛省・自衛隊を表現する際にしばしば使われる言葉に「24時間365日の任務」、「24時間365日態勢を維持」などがある。読者の皆様もどこかで耳聞きされたこと

があるのではないだろうか。しかし、これは、ただ単に組織を表す標語のようなものでは決していないことが、今回の新型コロナウイルス対策で垣間見られた瞬間があった。それは、新型コロナウイルス感染症の発生源となった中国の武漢市が閉鎖され取り残された日本人を救出に行く政府チャーター機が飛んだ際のことである。

合計5機の政府チャーター便が邦人救出に向かったが、最初の便に同乗した医師や看護師は全員厚労省が手配をしていた。しかし、第2便が飛び立つ当日の朝に突然厚労省から防衛省に同乗させる看護師を派遣してくれないか、との連絡が来た。防衛省は、すぐさま人選に掛か

り、2名の看護師（看護師資格を有した自衛官）を選定し、選ばれた2名は、直ちに荷造り（派遣に必要な装備品の準備）をし、その日のお昼過ぎにはみんなで送り出しを行ったのである。このような



▲2名の看護師の送り出しの様子

任務が想定される隊員は全員が、常にパスポートも準備をしており、いざ命令が下されればいつでも、まさに24時間365日、任務が遂行できる態勢を維持しているのである。



一連の政府チャーター機は、いずれも中国武漢市への定期便を有していることからANA（全日本空輸）によるものであったが、これも感染のリスクを伴う危険なフライトであり、機長や搭乗員は手上げ方式（希望者・志願者）での人選を行ったそうである。側聞したところでは、「私が行きます」と手を挙げた職員が、必要人員を超えたそうである。彼らの勇気に敬意を表したい。

新型コロナウイルスとの戦いは、ワクチンや治療薬が完成するまで続くことだろう。それまでは、我々一人一人が、手洗い・うがいの励行、3密を避けるなどの「新しい生活様式」を取り入れることで感染のリスクを低減させ、生活を

して行かざるを得ない。本誌製作委員会の一同も明るい話題を提供できる日に向かって、皆様と共に出来ることから立ち向かって行きたい。

お知らせ
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月の駅頭活動は中止し、6月からは段階的に再開しました。

アドレスは「ぼれぼれ」

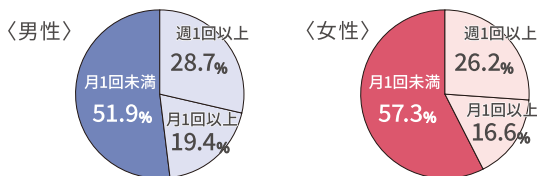
**twitter、Facebookも
本人がやっています**

皆様からのご質問やご意見、
お待ちしております。

 **twitter**
@ty_polepole

 **facebook**
facebook.com/ty.polepole

【男女別スポーツ行動率】



【全国スポーツ行動率】

	男性	女性
1位	東京都	東京都
2位	福岡県	神奈川県
5位	神奈川県	千葉県

出典：メディプラス研究所

全国スポーツ行動率ランキング運動のススメ

前回取り上げた「歩行習慣」に続き、「スポーツ行動」についてもストレスとの関連性を調査。
神奈川県のスポーツ行動率の順位は…？

新型コロナウイルスの影響による外出自粛期間が長く続き、運動不足を感じている人も多いのではないだろうか。全国のスポーツ行動率（歩く習慣は除く）について調査したところ、昨年のデータによると、月1回以上スポーツ行動をしている人は、なんと男女とも半数に満たない割合となっている。

都道府県別にランキング化すると、神奈川県は男性5位、女性2位と好成績。運動施設の充実やプロスポーツクラブがあるため、上位に都市部が多い傾向だ。

か、上位に都市部が多い傾向だ。ストレスの観点からは、男女ともスポーツ行動が月1回以上、週1回以上と頻度が高くなるほど、高ストレス者の減少傾向がみられることがわかっていく。

思う存分スポーツを楽しめるまでにはまだ時間がかかりそうだが、自宅での簡単なストレッチやエクササイズなど、できる範囲で体を動かすことがストレスの減少、心身の健康を保つことにつながる意識していきたい。

山本ともひろプロフィール

経歴

- 関西大学 商学部 卒業
- 京都大学 大学院 修士課程(法学)修了
- (財)松下政経塾 卒塾(21期)
- 米国ジョージタウン大学 客員研究員、その後、会社員を経て
- 平成17年 衆院選 初当選
- 平成26年 文部科学大臣政務官・復興大臣政務官 就任
- 平成27年 オリンピック・パラリンピック大臣政務官 就任
- 平成29年 防衛副大臣・内閣府副大臣 就任
- 平成30年 自民党 国防部会長 就任
- 令和元年 防衛副大臣・内閣府副大臣 就任

自由民主党 衆議院議員(4期 11年)

神奈川4区(栄区・鎌倉市・逗子市・葉山町)

昭和50年(1975年)生まれ
45歳 鎌倉在住



分かりやすいと大人気!

国会・防衛省見学案内実施中!

国会や防衛省を山本ともひろと一緒に見学してみませんか?

「政治が身近に感じられた」「分かりやすく、楽しかった!」と大人気の見学ツアーは無料で行っています。詳細は下記の事務所まで、お気軽にお電話ください。



ぽれぽれ通信って何?



「ぽれぽれ」は、ケニアの公用語のスワヒリ語で「ゆっくり、ゆっくり」という意。私は、ケニア・タンザニア米国大使館同時爆破テロの現場(ケニア)に居合わせたのがきっかけで政治家を志しました。

一度に全てを変え無理でも、諦めず、ゆっくりでも少しずつでも政治を変えていきたい。そうしなければこの国は良くならない…。そしてその活動を皆様にお伝えしていきたいという想いを込めて、この冊子を作っています。



山本ともひろ事務所リスト

本部事務所

神奈川県鎌倉市大船1-6-6 大久保ビル3F
TEL:0467-39-6933 FAX:0467-39-6943

国会事務所

東京都千代田区永田町2-1-2 第2議員会館 1110号室
TEL:03-3508-7193 FAX:03-3508-3623

令和2年(2020年)7月1日発行 第53号

【編集・発行】山本ともひろ後援会ぽれぽれ通信制作委員会 鎌倉市大船1-6-6 3F TEL 0467-39-6933 FAX 0467-39-6943

※本誌は、隔月(1、3、5、7、9、11月)発行の機関誌です。バックナンバーについては上記事務所までご連絡ください。またHPにも掲載しておりますのでご覧ください。